

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう！岩手 つなごう！岩手 第 171 号 令和 3 年 3 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

天皇皇后両陛下 本県被災地をオンラインで御視察

令和 3 年 3 月 4 日（木）、東日本大震災津波から 10 年を控え、天皇皇后両陛下は、お住いの赤坂御所（東京都港区）と本県をオンラインで結び、復興状況を御聴取されるとともに、被災者と御懇談されました。

即位後初めてとなる東日本大震災被災地への御視察で、両陛下は、達増知事から、宅地の造成等が完了し、

応急仮設住宅に入居している全ての方が 3 月中に恒久的な住宅に移る見通しであることなど、本県の復興状況について説明を受けました。その後、戸羽陸前高田市市長及び野田釜石市長から両市の復興状況について説明を受け、両市の被災者と懇談されました。

両陛下は、御視察の中で被災者の

方へ、親身にねぎらいや励ましのお声をかけられました。



両陛下に県内の復興状況等を説明する達増知事

あの日から 10 年

東日本大震災津波 岩手県・陸前高田市合同追悼式



御来賓が参列した特設会場
(高田松原津波復興祈念公園内)

令和 3 年 3 月 11 日（木）、東日本大震災津波岩手県・陸前高田市合同追悼式を執り行いました。

この合同追悼式は、3 密回避、時間短縮などの新型コロナウイルス感染防止を図るため、会場を 2 つ設け、御来賓の特設会場を高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設、御遺族を中心とした方々の自由献花の場を陸前高田市民会館「奇跡の一本松ホール」として開催しました。

祈念公園では、復興大臣政務官や



式辞を述べる達増知事

ジョセフ・M・ヤング駐日米国臨時代理大使をはじめとした御来賓が参列しました。奇跡の一本松ホールでは、御遺族等の方々から献花に訪れ、当日の参列者は両会場合わせて約 480 名となりました。

祈念公園内で行われた追悼式の式辞で、達増知事は「これまでの復興に向けた歩みの中で得られた多くの絆を大切に、一人ひとりの大切な人に想いを寄せ、ふるさと岩手を築いていくことを誓います。」と述べました。また、御遺族代表として同



式辞を述べる戸羽陸前高田市市長

市出身の丹野晋太郎（たんの しんたろう）さんが「たくさんの人に助けられながら、ここまで生きてくることができた。家族や周囲の人に日々感謝し、その存在は決して当たり前ではなく、「死」と隣り合わせで生きていることを知ってほしい」と追悼のことばを述べました。

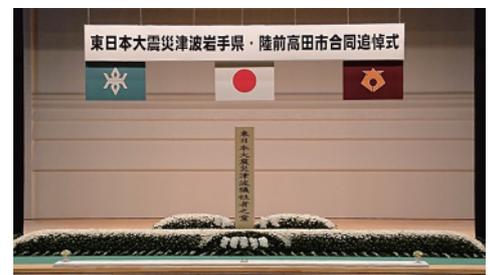
東日本大震災津波から 10 年を迎え、地震発生時刻の 14 時 46 分に合わせて黙とうを捧げ、献花台に花を手向け、犠牲者の死を悼みました。



黙とうを捧げる参列者



御遺族を代表して献花する丹野さん



御遺族等の方々から献花した奇跡の一本松ホール

「3.11 を語り継ぐ 感謝のリレー列車」運行

三陸鉄道沿線

SANRIKU

令和3年3月11日（木）、三陸鉄道において、ラッピング列車による企画列車「3.11 を語り継ぐ 感謝のリレー列車」が運行されました。

「3.11 あの日を語り継ぐ 大切な人に想いを寄せて」というタイトルが記されたラッピング列車は、盛駅から久慈駅まで運行しました。車内では、三陸鉄道社員が発災当時の写真やエピソードを交えながら現地のガイドを行いました。発災と同時刻の14時46分には宮古市閉伊川の鉄道橋上で列車を一時停車させ、乗客約30名による黙とうが捧げられました。



3月11日に運行されたラッピング列車

- 問い合わせ：【情報発信関係】 岩手県復興局復興推進課
☎ 019-629-6945
【列車の運行関係】 三陸鉄道株式会社
☎ 0193-62-8900

「笑顔で灯そう。幸せの火。希望の火。」 開催

令和3年3月12日（金）から16日（火）にかけて、岩手県内5町村（軽米町・九戸村・葛巻町・西和賀町・住田町）で、東京2020オリンピック聖火の巡回展示「笑顔で灯そう。幸せの火。希望の火。」が開催されました。

令和2年3月にギリシャで採火されたオリンピック聖火が、公民館や小学校などの各会場に灯ると、子どもたちをはじめ、地域の方々が拍手で迎えました。

岩手県内では、令和3年6月に、東京2020オリンピック聖火リレーが開催予定であり、今回の展示と合わせ、県内全ての市町村にオリンピック聖火が巡る予定です。



展示された聖火を興味深く見つめる子どもたち



- 問い合わせ：岩手県文化スポーツ部
オリンピック・パラリンピック推進室
☎ 019-629-6798

つ な み

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」
（いわて TSUNAMI（つなみ）メモリアル）を紹介します。

令和3年3月11日（木）、東日本大震災津波伝承館は、令和元年9月22日の開館以降、2度目の「3月11日」を迎えました。

3月7日時点で伝承館の来館者数が30万人を超えるなど、連日、県内外から多くの方々にご来館いただいています。この日も、1,200人を超える方々が来館し、震災津波について学び、また、10年前の発災当時に思いを馳せていました。

あの日から10年、東日本大震災津波伝承館は、この悲しみを二度とくり返さないためにも、震災津波の事実と教訓を国内外に伝え続けていきます。

東日本大震災津波伝承館 3月～4月のイベント情報

東日本大震災津波伝承館では、東日本大震災津波から10年を迎えるにあたり、これまでにいただいた支援に感謝し、復興への思いを新たにす機会とするため、2つの企画展示を同時開催します。

① 企画展示「復興を共に進める」

東日本大震災津波からの復興の姿を航空写真で紹介し、岩手県沿岸12市町村21地域のパネル展示及びスライドショーの上映を行い、この10年を振り返ります。

■日時 3/13（土）～3/28（日） セミナールーム（道の駅側）

3/29（月）～4/11（日） 伝承館 ゾーン3

※ 3/29（月）からは、規模を縮小して実施します。

② 企画展示「児童・生徒の感想、レポート展 ～ 東日本大震災津波伝承館を見学して～」

伝承館を訪れた13校の学校の児童・生徒から寄せられた、感想文やお礼文、レポート等を展示し、伝承館の1年を振り返ります。

■日時 3/13（土）～4/11（日） 伝承館 ゾーン4

（道の駅側・地域情報スペース）

■問い合わせ：東日本大震災津波伝承館 ☎ 0192-47-4455



「復興を共に進める」チラシ



「児童・生徒の感想、レポート展～東日本大震災津波伝承館を見学して～」



東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。
今回は、宮古市の郷土芸能「法の脇獅子舞」について、長洞 正人（ながほら まさと）さんに伺いました。



法の脇獅子舞保存会
会長
長洞 正人 さん

「法の脇獅子舞」は、江戸末期頃に宮古市茂市（もいち）地区（旧新里村）から同市法の脇地区に伝わったと言われ、太鼓たたきと踊り手で構成されています。獅子頭を被った踊り手は、太鼓を付けずに飛んだり跳ねたりする激しい踊りが特徴です。

毎年8月16日に行われる津軽石の稲荷神社での祭礼には、獅子舞を奉納し、神輿にお供しながら津軽石各地の芸能団体と共に町内を巡行します。

震災前、法の脇地区には27軒の家屋がありましたが、津波で3軒を残してほとんど流されてしまい、公民館に保管していた獅子頭や太鼓、衣裳など全て失いました。

震災後は、集落全体が災害危険区域に指定されたため住宅の再建ができなくなり、法の脇地区は解散、移転を余儀なくされ、まずは地域住民の生活再建を優先する状況でした。

平成27年頃には、半数程度の住民の生活が落ち着いてきたので、「法の脇」という地名を何とか残さなくては

ならないと「法の脇獅子舞保存会」を立ち上げました。県内外の支援を受け、平成28年の祭礼には、踊りを奉納することができました。

また、津軽石中学校では昭和54年頃から課外活動として郷土芸能を学ぶ取組があり、平成24年には生徒が獅子頭などを制作し、文化祭で獅子踊りを披露し復活させました。

保存会では、中学生に踊りの指導を行っていますが、今後は、踊りを習った人たちに踊りを続けてもらい、若い人たちと一緒に、法の脇獅子舞をはじめとする郷土芸能で津軽石地域を盛り上げていきます。



法の脇獅子舞の演舞（写真提供：法の脇獅子舞保存会）

復興ポスター&動画の新作を公開

令和3年2月17日（水）、岩手県では、震災の風化防止と復興支援への感謝を伝えるため、「東日本大震災から10年 記憶と教訓を未来の力に。」をテーマとしたポスター4種類と動画2本を公開しました。

親を失った子どもたちなどの「暮らし」と「学び」のために設けられた「いわての学び希望基金」を題材とした作品では、釜石市で被災後、基金の支援を受け、現在は一戸町で子どもたちに遊ぶ楽しさを伝える女性と子どもたちが掲載されています。

作品は、特設サイト「いわてとあなたが、つながるページ」または岩手県公式動画チャンネルで公開されていますので、ぜひご覧ください。



いわての学び希望基金の動画風景

「いわてとあなたが、
つながるページ」



岩手県
公式動画
チャンネル



■問い合わせ：岩手県政策企画部広聴広報課
☎ 019-629-5283

津波伝承絵本「普代村を守った 奇跡の水門」発行

普代村

FUDAI

令和3年2月17日（水）、普代村では、東日本大震災津波伝承絵本「普代村を守った奇跡の水門」を発行しました。

この絵本は、元村長の和村 幸得氏の防災への強い思いから建設され、震災被害を最小限に抑えた普代水門をテーマに、震災を経験していない子どもたちや若い世代に事実と教訓を伝えることを目的として制作されました。

平成27年に村と連携協定を結んだ追手門（おつてもん）学院大学（大阪府茨木市）の学生が制作した紙芝居が基になっており、完成した絵本は、岩手県内全ての小学校（304校）に寄贈されました。

また、絵本の発行に併せて、普代村の地形や海と町の位置関係が分かり、普代水門の果たした役割が感じられる上空からの動画が掲載されていますので、ぜひご覧ください。



「普代村を守った奇跡の水門」表紙

上空からの動画は
こちら



■問い合わせ：普代村政策推進室 ☎ 0194-35-2114



三陸鉄道 陸中山田駅前に整備された「山田町まちなか交流センター」は、町民が集い交流し、地域活性化を図るにぎわい交流拠点として利用されています。



山田町まちなか交流センターの外観



交流スペース

震災ギャラリー

「山田町まちなか交流センター」は、東日本大震災津波からの復興に向けて被災地の商店街再生を国が支援する「まちなか再生計画」に位置付けられて整備され、平成 28 年 11 月に開所しました。

交流センターは 3 階建てで、1 階は交流イベントスペース、2 階は会議や研修のほか、サークル活動などに利用することができます。3 階には調理室を備え、食育や特産品を使った商品開発などができる施設となっています。

また、令和 3 年 3 月 11 日（木）には、交流センター内に新たに震災ギャラリーも開設されました。

駅前には、この交流センターのほか、まちなかにぎわい創出の核となるスーパーや飲食店などが入る共同店舗「オール」や、小中高生の居場所と図書館の役割を兼ねた「山田町ふれあいセンター・はびね」が整備されています。

■所在地：下閉伊郡山田町川向町 6-24

■問い合わせ：山田町水産商工課

☎ 0193-82-3111（内線 228）



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第 117 回は、川崎 杏樹さんを紹介します。

PROFILE

釜石市出身。釜石東中学校、釜石高校を経て山梨県の大学に進学する。卒業後は釜石市にＵターンし、令和 2 年 4 月から釜石市の震災伝承施設「いのちをつなぐ未来館」で施設のガイドを務めるほか、語り部として震災の教訓、防災について発信している。

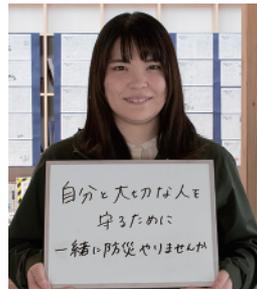
震災で得た教訓を伝える

震災発生時、中学 2 年生だった川崎さんは、隣接する鶴住居小学校の生徒の手を取り、高台を目指しました。「釜石市では、震災前から防災教育が行われてきました。災害への知識を得るだけでなく、何故逃げなければいけないのか、自分の家族や大切な人が命を亡くす悲しみを想

いわて
さんりく
びと

いのちをつなぐ未来館
ガイド

川崎 杏樹さん
(かわさき あき)



自分と大切な人を
守るために
一緒に防災やりませんか

像することで、予想される災害を自分事として捉えることができ、備える心構えもできると思います。震災から 10 年が経ちます。多くの人にとって、あの時感じた辛さや悲しさは消えることなく、後悔も残っていると思います。震災からの教訓を伝えることが私の役目だと思っています。」と伝承への思いを語ります。

オンラインで繋がる広がり

新型コロナウイルスの影響を受ける中、「来館できない方々へはオンラインで施設の案内や伝承活動も行っています。オンラインを利用することで遠くて来られない方々や遠方の学校など、日本全国の方々との繋がりが広がっています。時間の経過とともに震災の風化も進んでいると思いますが、今後起きるであろう災害の中で、自分の大切な人をイメージして防災について自分事として考えて欲しいと思います。」と川崎さんは、震災の教訓を発信しています。

岩手県の被害状況

令和 3 年 2 月 28 日現在

皆様のご支援、ありがとうございます

令和 3 年 2 月 28 日現在

▶人的被害 死者（直接死）：4,674 人 行方不明者：1,111 人
死者（関連死）：470 人

▶建物被害（住家のみ、全半壊） 26,079 棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

検索

▶義援金受付状況 約 187 億 5423 万円（97,846 件）

▶寄付金受付状況 約 201 億 5904 万円（10,783 件）

▶いわての学び希望基金（※）受付状況 約 102 億 8433 万円（25,362 件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約 24 万点の資料を検索・閲覧できます。



[いわて震災津波アーカイブ](#)

検索

いわて復興だより 第 171 号 令和 3 年 3 月 23 日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6945
編集・印刷：シナプス